

## 目標達成計画

作成日: 令和 3 年 3 月 2 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	10	面会時には家族に要望や意見を聞くようにしているが、職員に対しては遠慮があったりして、なかなか本音や真の要望を聞くことが出来ていないと感じる。	入居者や家族に希望・要望・意見を聞く機会や方法を増やし、反映出来るようにする。	今まで通りに口頭での聞き取りの他に、定期的なアンケートの実施や意見箱の設置場所を工夫するなどして意見が言いやすい環境を作り、幅広く意見や要望を聞くことが出来るようにする。	12ヶ月
2	33	加齢や認知症の進行による入居者の変化に職員の理解や対応が追い付いていないと感ずることがある。今後は看取り対応も増えていくと思われる為、職員がしっかり知識と技術を持って対応出来るようにしたい。	終末期を迎え、看取り対応となっても、入居者や家族が安心して過ごせるような事業所を目指す。	入居者の変化に合わせて、主治医や家族と今後についての対応を話し合う機会をこまめに作る。また職員に対しては看取りを含めた重度化に関する研修を実施し、知識や技術の向上に努める。	12ヶ月
3	40	現在、夕食と週に1回の昼食を手作りで提供しているが、献立がマンネリになり、入居者の好みや希望を反映出来る機会が少ない。「食」に対して、もう少し入居者と職員が一緒に楽しめるようになればと考えている。	入居者が食べたいもの、お好きなものを聞いて提供出来る機会を増やし、「自分で決める」「自分で選ぶ」「自分で考える」力を発揮出来る支援を行うとともに、その過程を入所者と職員が一緒に楽しめるようになる。	献立を考える際には入居者の意見を取り入れたり、誕生日などには本人の好きなものを作ったり、入居者本位の考え方が出来るようにする。また一緒に考えたり、調理の過程を入居者とともに職員も楽しめるようになる。	12ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。